『「ホームレス」と出会う子どもたち』 ワークシート

（教材DVD『「ホームレス」と出会う子どもたち』のナレーション・発言をもとに作成）

●「ホームレス」と出会う子どもたち

　大阪市西成区、「釜ヶ崎」と呼ばれるこの街には、たくさんの日雇い労働者 が暮らしています。その「釜ヶ崎」に、子どもたちが集まる児童館「こどもの里」 があります。ここは、子どもが自由に過ごすことのできる施設です。遊びにやってくる子ども以外に家庭の問題など、さまざまな事情を持つ子どもを受け入れ、 安心して暮らせる居場所にもなっています。

　土曜日の夕方５時、子どもたちは、(１　　　　　　 )づくりを始めました。 寒さが増す１〜３月の毎週土曜日、「こどもの里」では、夜まわりをします。訪ねる先は、野宿するホームレスの人たちです。

　夜まわりでは、寒さや飢えをしのぐために毛布や(1)などを渡しますが、物を渡すこと以上に大切にしているのは、一人一人と話をすることです。

【問１】

夜まわりをしている子どもたちは、どのように野宿をしている人たちに声かけをしていますか?

(　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　)

【問２】

子どもたちが会話をした野宿者の人たちは、どこの出身でしたか?

( 　　　　　　　　　　　　　　　 ) ( 　　　　　　　　　　　　　　)

【問３】

DVDでは、野宿者の方との話に参加できない高校生が登場しました。 彼らは、その理由について、何と答えていましたか?

(　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　)

１

　この夜まわりは、1987年から20年以上も続いています。なぜ、このような活動を始めたのでしょうか? 1983年、横浜の山下公園で野宿していた 60歳の須藤泰造さんが、中学生５人を含む少年グループから暴力を受けて殺されました。そのことに大きなショックを受けた「こどもの里」の館長・荘保共子さんは、地元「釜ヶ崎」の子どもたちはどうなのか、調べました。その結果、野宿者に対して「怖くて、汚い」と感じていたり、つばをかけたり、爆竹を投げつける子どもがいることを知ります。そこで子どもたちに、野宿する人の事情をきちんと知らせる必要があると考えたのです。でも、それがどうして夜まわりになったのでしょうか?

【問４】

荘保さんは、「なぜ、夜まわりをするようになったのか?」という疑問にどう答えていますか?

「いくら、大人が言葉で言うよりも、子どもたちが( 　　　　　　 )できることが すごく大切。実際におじさんに会って、『おじさん、どうしたん?』『なんで野宿 しているの?』と聞いてみると、『ケガした』『病気になってな』『歳をとったので雇ってくれない』とか(返答を受けることで)、子どもたちは『ああ、そうなのか』と納得し、理屈ぬきにわかって、受け入れられる」。

●野宿生活について知っていますか?

　野宿生活が２ヶ月になる鈴木安造さん(64歳)の暮らしを見せてもらいま した。

　「どうして野宿生活に?」

　「(２　　　　　　　 )で倒れて、初めてこういう生活になった。仕事もできないから」。

　「仕事中や、(３　　　　　　　 )の。そのときに自然と具合が悪くなった。自分でも『これは(２)かな』と思った。それで仕事ができないようになって、救急車でも何でも呼んでくれと言ったけど呼んでくれなかった。『人間がいないから５時までめいっぱい(仕事を)してくれ』と言われた。そのときに病院に行っておけば、この後遺症は残っていない。全然歩けないときがある。左手は全部悪い。つめの先まで。肩から全部しひびれている」。

２

　「今、望んでいることは?」

　「ただ(４　　　　　　 に　　　　　　 )ことと、ごはんを食べる こと。それがあったらいくらでも仕事を探せる。だけど(５　 歳)を過ぎ たら仕事がない」。

　そんな鈴木さんは、店から出る(６　　　　 ) を集め、それを売って生活をしています。最近では、不況のためか、同じように集める人が増え、(６)が手に入らない日もあるそうです。

　「だいたい、毎日、どのくらい歩かれますか?」

　「毎日、約20kmは歩くと 思う。ぐるぐる歩き回っているから」。

　「今朝は５時に起きて、昨日の(６)を積んでいたやろ? あれ持って行って。今日は朝から３回行ってる。これ行ったら４回目や」。

　「前は、どんな仕事をされていたのですか?」「昔は(７　　　 )署員やった。はしご車に乗っていた。人の死骸を見て、いやになって辞めたけど」。

　「おいくつのときですか?」

　「(７)署は(８　　 　　 歳)ぐらいのとき」。

　「お若いときですね?」

　「(７)学校出てな。今ごろ(７)署にいたら 良かったなと思うけど。どこの仕事場でもみんないろんなことがある」。

　「ちょっと回ろうか。もうちょっと回ったら終わりや」。

 集めはじめてから１時間半、台車がいっぱいになったので、(６)

を買い取ってくれる業者へ運びます。

　この日の(６)は、１kgで(９　　　　 )円でした。計量器で量った鈴木さ

んの(６)の重さは、31kgほどでした。

 (※従って、(９)×31≒(10 　　　　　 )円。1円以下を四捨五入。)

　結局、この日朝５時から夕方まで10時間働いて、収入は(11 　　 　　　 ) 円でした。この日の鈴木さんの食事は、(12 　　　　 )を２袋だけでした。

(「２つ買っても90円で安いから」と鈴木さんは話していました)。

　鈴木さんが、(12)を作るために立ち寄ったのは、「ふるさとの家」という民間の施設です。生活に困った人たちが、誰でも水やガスを使えるようになっています。

　食べることと同じように、寝ることも人が生きるために欠かせません。

３

●野宿者への襲撃

　鈴木さんは、夜、眠れているのでしょうか?

　「ゆっくり寝れますか、朝まで?」

　「寝れない。いつ何かに襲われるかと考えているから」、

　「寝れない、そう簡単には。雨の降った日なんかは 怖い」。

(なぜ、鈴木さんは、雨の日が怖いのでしょう?)

　「(13　　 　　 )で刺されることがあるから。酔っぱらいが通ったら(13)でダンボールを刺す。そしたら人間の顔のところまでバーンとくる」「やっぱり 一番怖いのは(14 　　　　　　 )。あれが一番怖かった。両サイドから手と手を引っぱられて、上に何か乗せられて、それで撃ち込む。頭にボコボコたんこぶできてた」。

　「(加害者は)何歳くらいの人たちでしたか?」

　「みな(15 　　　　　　　　　　)」。

　「両手引っぱられて押さえつけられるとは、どういう状態ですか?」

　「早く言ったらキリストと一緒。キリストが十字架にのってるでしょ?あれと一緒のようなもの」。

　「じかに額を撃たれるのですか?」

　「じかに目の前１mくらい のところから撃たれる。(14)で。まともに当たったら目がつぶれる」。

　「それは 何人ぐらいで?」

　「あれは４人。警察行ったけど。警察もいないし...」。

　「安心して寝れないですね?」

　「ホームレスはみんなそう。路上生活している人間はみんなそうだと思う」。

　若者に襲われる話は、「子ども夜まわり」の中でもよく耳にすることです。

　「このおじさん、なんという人でしたか?」

　「(16 　　　　　　 泰造)さん」。

　「このおじさん、このごミ箱の中に入れられて中学生のお兄さんたち12人ぐらいが、転がしたり蹴ったりして、この(16)さんは死にました」。

　「こどもの里」では、夜まわりの前に、いつも学習会を行ないます。この学 習会では、野宿する人たちについて詳しく学びます。「今年の夜まわりの 学習会では、川口のおじさんの人生を聴きます。おじさんは野宿もしました。 今、おじさんは(17 　　　　　 )を受けて生活しています」。

４

　(ヒント:憲法25条「生存権」を具体化したもの。漢字4字)

●川口 (66歳)さんのお話

川口さんが、子どもたちに語った人生は苦労の連続でした。貧しかった家を助けるため、小学生の頃から働き、さまざまな仕事につきました。ダムや鉄塔、ビルの建設現場など、危険できつい「日雇いの仕事」にもつき、懸命に働きますが、体を壊してしまいます。仕事にも行けず、お金もつきて、ホームレスになった川口さんを、ある日、若者が襲いました。

【問5】

川口さんは、どんな被害を受けたのですか?

「誰かが、ぼくらの寝ている横のごミに( 　　　　　　 を　　　　　　 )た。何か臭いなと思って起きたら、もう火の海だった。そこに、19か20歳ぐらいの若い青年が、ボケーと立って、こっちをただじっと見てるわけ。で、ワーと火の手があがって、道路の( 　　　　　 )が溶けたほど。ぼくら必死で消した」。

　鈴木さんや川口さんにも起きた襲撃事件は全国で起きています。しかも、 若者や子どもによるものが目につきます。

　(若者や子どもが深刻な襲撃事件の加害者となっていることが多い)。

●「なぜ、若者や子どもが、野宿する人を襲うのでしょうか?」

　「こどもの里」と同じ、大阪市西成区にある児童館「山王こどもセンター」 の夜まわりを訪ねました。マイカさんは15歳。夜まわりに参加して５年ほど。マイカさんが、初めて夜まわりに参加したときのことを聞きました。

　「(野宿の 人と)最初に話したとき、どんな気持ちだった?」

　「最初、話しかけられなかったんですよ。怖くて。で、質問を毎回決めていて、それは必ず聞かなければってことで、聞いたら、ちゃんと笑顔で応えてくれた。それで気持ちがやわらかくなって、普通に話せるようになった」。

５

　そんなマイカさんに、同世代の子による襲撃事件について、どう思うか聞いてみました。

　「なんとなくわかる。そのおっちゃんらに対して暴力をふるっている子たちの気持ちは、わかってはいけないと思うんですけど、なんとなく少しだけわかっちゃう気もしてて...。で、やっぱり同級生に、こういう夜まわりをしてるっていうのを言うと、一歩ひかれる部分もあるから」。

　「わかるかも、っていうのはどういうところで?」

　「自分も、最初におっちゃんたちと話したときは怖かったし、やっぱり、こう いう年代の子らって、1人がそういうことをしだすと(暴力をふるいだすと)、みんな、楽しいからみたいな感じでやっちゃうと思うので、そういうノリはわかるような気もする。でも人に暴力をふるったりするのはわからないですけど ...」

●襲撃をなくすためには、野宿者への差別や偏見に気づくことが大切。

　しかし、それだけでなくせるとは限りません。数年前、「こどもの里」の荘保さんは、残念な出来事を知りました。

　「実際に夜まわりに来たことのある子が、襲撃をしていたことがわかったんです。しかも、この地域の学校の子どもが...。しかも(18 　　　　　　 )です。つまり襲撃をする子どもたちは、 やっぱり(19 　　　　 )子ですね。自分自身の生活、自分自身がやりきれない、自分自身が(19)。自分自身がいっぱいになってしまって、どこかで 発散する。その発散の矛先が野宿者に向かう。ひょっとしたら、自分も世の中で役立たずと言われていたかもわからない子が、世の中の役に立たな いと言われている人に向かって『、俺は役に立たない、こういうごミを始末するんだ』という形で向かっていく...」。

　今、学校や家庭の中で、子どもたちが感じている息苦しさやストレス。 それが暴力になるというのは、自分のいらだちを人にぶつけて攻撃する、

(20 　　　　　　　　　 )と同じかも知れません。

６

【問6】

生きづらさをやわらげ、(20)や襲撃をなくすには、どうすればいいのでしょう？

 そして今、ホームレスの人たちに、私たちは何ができるのでしょう？

(　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　)

●大阪市の「高齢者特別清掃事業」

　ダンンボールを集めながら、野宿生活をしている鈴木さん。この日は、新たな仕事に向かいます。初めての仕事に少しとまどいながらも、鈴木さんは、 道路のごミを1つ1つていねいに拾っていきます。実はこの仕事、大阪市が

(21 　　　　　　 歳)以上の日雇い労働者や野宿者を対象に出しているもので、 およそ2000人が登録しています。ただ1日に働ける人数が200人ほどの ため、鈴木さんがひと月に働けるのは、３〜４回になります。しかし、それでも多くの野宿者にとっては、食事代の400円を含めた日給(22 　　　　 )円は、とても貴重な現金収入となっています。

●野宿者への支援活動

　野宿者への支援活動は、北海道から沖縄まで全国各地で行われており、子どもたちも参加しています。こうした活動に参加することで野宿者と出会い、知ることができます。初めての参加で、自分からなかなか話しかけることができなかった今井くん。積極的に話す子どもたちにならって、ようやく 自分から言葉をかけはじめていました。

　今井くん「やっぱり最初はちょっと抵抗があって、話しかけづらいと思ってたんですけど、話しかけてみるとやっぱり一緒の人間だな、とか、そんなことを思いました」。

　まず、出会ってみること。それは当たり前のことに気づく、大切な第一歩となるでしょう。

７

【問7】(【発展学習】)

このDVD(本編30分)の中で描かれていない野宿生活者の現実と して、どのようなものがありますか?

(　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　)

●感想・意見欄

 　 　 年　　　組　　　番 　氏名

８

「ワークシート」 の答え

1. おにぎり

2. 脳こうそく

3. ガードマン

4. 安全に寝る

5. 60 歳

6. ダンボール

7. 消防

8. 20

9. 6

10. 190

11. 900

12. インスタントラーメン

13. かさ

14. エアーガン

15. 高校生

16. 須藤

17. 生活保護

18. 小学生

19. しんどい

20. いじめ

21. 55 歳

22. 5700

【問1】 　回答例 : 必ずしゃがんで、寝ている野宿者の方を驚かせないようにして、「こんばんは、体の具合はどうですか?」 と適当な大きさの声(寝ている方を無理に起こさない)で尋ねる。

【問2】　 兵庫県、与那国島

【問3】　 「邪魔になったらまずいな、と思った」 「いきなり入っても...」

【問4】 体験

【問5】　　火をつけ、アスファルト

【問6】　　省略

【問7】　　回答例:夜中から空き缶集めをしている人もいる。

若い人や女性もいる。

フェンスや柵で社会的に排除されている現実がある　など